

おわりに

当院では、関節リウマチ診療に関節エコーを導入してから約25年が経過しました。この25年の間に、関節エコーは国内で広く普及し、エビデンスも着実に蓄積されてきました。

一方で、関節エコーの使い方に、唯一の正解があるわけではありません。目的はあくまで、エコーを通じて関節の炎症を見逃さず、正しい診断を行い、そして患者さんの疼痛と関節破壊をできる限り食い止めることにあります。そのための関節エコーの使い方は、一定の標準化を踏まえつつも、各施設やチームの体制、診療スタイルに応じて多様であってよいと考えます。本書は、そうした多様な流儀の1つとして、当院がこれまでの診療と教育の現場で培ってきた考え方や工夫をまとめたものです。どうか一施設の実践として位置づけたうえで、皆さまそれぞれの現場に合う形で取り入れていただければ嬉しく思います。なお、本書の作成過程ではできる限り丁寧に検討を重ねたつもりです。小池隆夫最高顧問を監修代表として、当院のリウマチ科の医師および検査技師が本書の全ページについて定期的に読み合わせを行い、内容の精度を高めました。本書を、読者の皆様の日常診療に少しでも役立てていただければ幸いです。

最後に、本書の作成にあたり、長年にわたり日々の多忙な業務のなかで尽力いただいた小池隆夫最高顧問をはじめ、当院の医師ならびに検査課スタッフの皆様に、心より感謝申し上げます。

2026年8月

北海道内科リウマチ科病院 理事長
谷村一秀